



<2022年度 入学式 小田 恵 学校長 式辞(一部抜粋)> 4月8日

○ 中学入学式 ○

71期生の皆さん、洛星中学への入学おめでとうございます。

皆さんは今日からの洛星中学での生活に希望と期待で胸をふくらませていることでしょう。同時に不安もあるかもしれません。でも心配はありません。

自分から進んで新しい友達の輪を広げていってください。新しい知識を獲得していきください。困ったときには、先生、先輩、職員の方の助けをもとめてください。何もしないで誰かがしてくれるのを待つのではなく、自分から行動する、これが中学生としての一歩であり、大人への一歩です。

洛星はカトリックのミッションスクールであり、祈りをとても大切にしています。これまでキリスト教やカトリックになじみがなく、今は意味がよくわからない人も多いかもしれません。今はそれで構いません。ですが、これだけは心にとめておいてください。皆さんは一人一人神に愛され、生かされているかけがえのない存在です。そして神から限りない「タレント」すなわち能力・可能性を授かっているのです。かけがえのない存在である皆さん一人ひとりが輝けるよう、教職員一同、授業を中心に、クラブ活動、課外活動などさまざまな活動において全力でサポートしていきます。

カトリックミッションスクールとして洛星が大切にしているのは、皆さんに「こころ(徳の力)、あたま(知の力)、からだ(行動する力)」のバランスのとれた人に成長してもらうことです。先日の登校日でもお話しましたが、二つのことを大切にしてほしい。

まずは「人の痛みに気づくこころ」をもってください。イエス・キリストは「あなたの隣人を愛なさい」とおっしゃいました。「愛する」とは決して恋愛感情ではなく「大事に思う」ことです。たとえ「敵」であっても相手の尊厳を大事にし、思いやる。そういう心です。「人の痛みに気づく」ということは、身近な人だけでなく、相手のことを大切に思うということです。それは、例えば挨拶をする、「ありがとう」と声に出して伝えるなどの、日々の小さな積み重ねで得られます。

二つ目は、「学ぶ楽しさを知る」ということです。「学ぶ」は「真似をする」という意味の「まねぶ」からきていることばだという説があります。「まねをする」という少々退屈で受動的な作業の「まねぶ」という基礎があって初めて「学ぶ」ことができます。日々の授業を大切にし、自学習の習慣をきっちりと身につけた上で、「もっと知りたい」「こうしたらどうなるのだろう」と積極的な学びに姿勢が生まれてきます。この「学び」は容易なことではないかもしれません。一生かけても学びきれないものもあるでしょう。でも「学ぶ楽しさ」「探究する楽しさ」は「まねぶ」こととは比べものにならないほど多くのものを与えてくれます。

「あたま」すなわち「知の力」とは単に知識のことを意味するものではありません。身につけた知識を活かしていく力、行動していく力なのです。どうか積極的に与えられることに取り組み、積極的に求めてください。良い意味で、貪欲に、欲張りになってください。神から豊かなタレントを授かった皆さんが、大きく成長していってくれることを望んでいます。

○ 高校入学式 ○

68期生の皆さん、高校入学おめでとうございます。

3年後には皆さんは18歳の「成人」として大きな社会的責任をもつこととなります。疫病や紛争の絶えないなか、社会のリーダーとして輝く存在になるために、これまでどおり、「人の痛みに気づく心」「学ぶ楽しさを知る」ことを大切にしてください。

3月の中学卒業式でのことばに スパイダーマンのベンおじさんのセリフが引用されていました。日本語では、「大いなる力には大いなる責任が伴う」と訳されているこのセリフは原作では『**With great power comes great responsibility**』となっています。ここで「責任」と日本語に訳されている「**responsibility**」というのは本来「応答できること」、つまり、呼びかけや求められたこと、期待されたことに応えられるという前向きな言葉です。キリスト教的にいえば、「神の呼びかけに応えられること」です。

神から愛された存在である皆さんは、一人ひとり豊かな「タレント」を授かっています。このタレント、能力は無限の可能性をもってると私は信じています。

「大器晩成」ということばがあります。「君は大器晩成タイプだね」といわれると、あまり嬉しくないかもしれません。しかし、『老子』では「大方は隅無く、大器は晩成す」とあり、「無限に大きい器は完成に至らない」と解釈もされます。私は、「無限に大きくなり続けるからいつまでも完成しない」という意味に「大器晩成」を考えたい。

皆さんはこれから いろいろ目標を定めてそれを達成していくでしょうが、達成は皆さんの完成ではないはずです。自ら限りを設定してしまったら、せっかく神から授かった「タレント」を活かすことが出来ない。それだけでなく、神からの呼びかけに十分に応えられないこととなります。私たち教職員はみなさんが自らの「タレント」を埋もれたままにすることなく輝かせることができるように、全力でサポートします。

『**With great power comes great responsibility**』

高校入学に際し、このことばをもう一度皆さんの胸に刻んでください。68期生の皆さんが、充実した高校生活を送れるよう心から祈っています。

<2022年度 始業式 小田 恵 学校長 式辞(一部抜粋)> 4月9日

入学(進学)・進級おめでとうございます。

私たちを取り囲む世の中は、感染症や紛争など不安定な状態が依然続いています。そんな中でも、今日、私たちがこの日を迎えられたことに感謝しましょう。

洛星はヴィアートル修道会によって創立されました。この会の創始者であるケルブ神父は、フランス革命の傷跡が残る社会の平安を取り戻すには、青少年に正しい教育を施すことが最優先だと考えて青少年の育成に生涯を捧げた方です。

洛星中学校高等学校が生まれたのも、第二次世界大戦後、日本がまだ混乱している時でした。青少年を教育し、平和な社会を築くには、青少年の教育が第一と考えられたからです。それは時を経た2022年の今にも通じることではないでしょうか。

71年目を迎える洛星が大切にしているミッションは「こころ、あたま、からだ」のバランスのとれた青年を育成し、世の中を導く星として、輝く存在として社会に送り出すことです。輝く星となるために、皆さんには「人の痛みに気づく心」と「学ぶ楽しさをする」ことを大事にして貰いたいと思っています。

そしてもう一つ、「ことば」を大切にしてもらいたい。

「ことば」を大切に。これは、単に言葉遣いを丁寧にしなさいということではありません。「ことば」によって自分の可能性を広げていってほしいのです。

「人がことばをつくるのではなく、ことばが人をつくる。」これは逆説的かもしれませんが。たしかに言葉を生み出し、操るのは人です。ですが、私たちがことばによってつくられている、と感じることが多々あります。どんなに心の中で思っている、ことばに表さないと人に伝わりません。どんなに素晴らしいことを思いついても、ことばとして発表しないと無いものと同じです。

今、制約の多い世の中で「どうせこれもできないから」「できないと恥ずかしいから」と、「ことば」で表すことをためらっているひとが多いのではないかと懸念します。皆さんには勇気をもって自分の心にあることを「ことば」として表して欲しい。自分の心のなかでなんとなくぼんやりとある思いを「ことば」として表にだせば、その言葉には責任 **responsibility** が伴い、必然的にそのことばの実現に一歩踏み出すことになるのです。

ヨハネによる福音書にこうあります。「初めにことばがあった。ことばは神と共にあった。ことばは神であった。」ことばに出したことを実現しようとするのは、神の呼びかけに応えることではないでしょうか。

皆さんは、ひとりひとり神から無限のタレントを授かっています。そのタレントを活かすために、どうか自分の夢を、希望を、思いを、勇気をもって、友人に、家族に、先生に、語ってください。

4月 は 始 まり の 時 刻 。 皆 さん が 新 た な 扉 を 開 き 、 豊 か に 成 長 し て い く こ と を 願 っ て 、 始 業 式 の こ と ば と し ま す 。